

## 私のインプラント治療変遷と現時点での到達点 My implant treatment journey and where I am now



**Takatsuna Nakamura**  
**中村 社綱**  
インプラントセンター・九州

私は開業して間もない頃（40年前）、治療で困った症例に遭遇した。それは

- ①下顎無歯顎で顎堤が高度に吸収し、コンプリートデンチャーでは顎機能回復が困難な症例
- ② EichnerB3 症例（咬合支持域の欠如が進んだ例）など、顎位の変動が著しく咬合崩壊へ移行すると思われる症例
- ③欠損補綴のためにやむなく健全天然歯を切削しなければならない症例 などである。

その際、自分の無力さと従来の欠損補綴法での限界を知ることになり、大いに悩んだ。

そして、インプラント治療の導入こそが難症例に対し最小の侵襲で最大の効果を得ることができる治療法になり得るとの確信を持った。

しかし、インプラントの適応に際し、骨が不足している場合も少なくなく、GBR や Sinus Graft など、骨造成法の研究・臨床に没頭した時期が第二ステージであった。

第三ステージでは上顎白歯部でショートインプラントや傾斜埋入の術式によって低侵襲治療が選択肢として加えられ、さらに前歯領域では審美的インプラントの単独補綴の取り組みや抜歯即時インプラントへの対応に大きな時間を費やした。

第四ステージとして、患者の QOL 向上に貢献したのが All-on-4 のグラフトレス・即時荷重法であり、この術式にはフラップレス手術も追加可能で、ナビゲーション手術の導入が貢献した。言わばピンポイント埋入術式の実現である。ナビゲーション手術はサージカルガイドプレートとダイナミックナビゲーションの活用で、我々は安心・安全で低侵襲の治療を患者へ提供可能となったのである。

さらに進化を遂げたフルデジタル化したインプラント治療は、検査・診断・治療計画・ナビゲーション手術・IOS による印象・CAD/CAM による補綴までカバーできるようになった。

今回、これらインプラント治療の歴史的変遷を踏まえた上で、現在の到達した治療法について詳細に述べる。

### 【略歴】

- 1975 年 神奈川歯科大学卒業
- 1975 年 九州大学歯学部口腔外科学教室入局
- 1980 年 中村歯科医院開設（天草市）
- 1996 年 インプラントセンター・九州歯科診療所開設（熊本市）  
元九州大学歯学部臨床教授  
熊本大学医学部臨床教授  
神奈川歯科大学客員教授  
歯学博士